

地域母子保健福祉情報紙 No.291

公益社団法人 母子保健推進会議

親子保健

お や こ ほ け ん

定款第 1 章第 3 条 目的 (抜粋)
国及び地方自治体
関係諸団体と連携協力して
母子保健の重要性を啓発し
母性の健康を守り たかめ
心身ともに健全な児童の
出生と育成に寄与してまいります

令和
7 年度

健やか親子21全国大会 (母子保健家族計画全国大会) 開催



式典で挨拶する佐藤拓代会長

令和 7 年 11 月 28 日 (金)、こども家庭庁 (東京都千代田区) にて「令和 7 年度健やか親子 21 全国大会 (母子保健家族計画全国大会)」を開催した (主催：こども家庭庁・社会福祉法人恩賜財団母子愛育会・一般社団法人日本家族計画協会・公益社団法人母子保健推進会議)。今年度の大会テーマは「新たな母子保健の潮流～こどもまんなか社会の実現のために～」とされ、開催方法は例年と異なり、表彰を行う式典のみ対面で行い、特別



黄川田大臣挨拶

講演やシンポジウムはこども家庭庁の大会特設サイトからのオンライン (YouTube ライブ) 配信、主催各団体による大会併設の研修会は、事前に収録し、期間限定でアーカイブ配信を行った。

式典では、黄川田仁志内閣特命担当大臣をはじめ各団体の会長による挨拶に続き、長年地域で母子保健の向上に尽力された方々への表彰が行われた。内閣特命担当大臣表彰として 48 名 4 団体 (本会議推薦の 2 名含む) に対して、黄川田仁志大臣から表彰状が授与されたほか、主催各団



本会議会長表彰の授与

体の表彰が行われ、本会議会長表彰として 56 名 4 団体 (本紙前号にて紹介) に対して、佐藤拓代会長から表彰状が授与された。

シンポジウム等はオンラインで

オンライン (YouTube ライブ) 配信ではこども家庭庁 成育局 母子保健課 田中彰子課長による行政説明「最近の母子保健を取り巻く状況」、基調講演として、国立成育医療研究センター 五十嵐隆理事長が「こどもの well-being を目指すために - バイオサイコソーシャルな視点 -」、シンポジウムは「母子保健 DX の推進に向けて」をテーマに、特別講演・コーディネーターに国立成育医療研究センター 成育こどもシンクタンク 副所長の山縣然太郎先生、パネリストに 菅野優美子氏 (埼玉県入間市 地域保健課)、武田庄平氏 (青森県むつ市 子育て支援課)、帆足和広氏 (母子モ株式会社) を迎え行われた。

令和 8 年度「健やか親子 21 全国大会 (母子保健家族計画全国大会)」は、令和 8 年 11 月、北海道にて開催される。

今月のページ

- 令和 7 年度 健やか親子 21 全国大会 (母子保健家族計画全国大会) 開催 …… 1
- 「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会」開催 …… 2～5
- 子育てパピアカフェ / 子育てパバ同士つながりピアカフェ「経験共有会」開催 …… 5
- 紙上セミナー：8020 の里づくり 「こどもの口腔機能発達について」
8020 ひとくちメモ「お口ポカンと口呼吸」 …… 6～7
- 歯科保健指導用パネル (最新版) ご紹介 / 「気持ちに寄り添うスキルアップセミナー」のご案内 / 編集帖 …… 8

「健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会)」の併設集会として、本会議、全国母子保健推進員等連絡協議会が共催で毎年実施している「母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会」は、今年度は事前に収録し、こども家庭庁の「健やか親子21全国大会」特設サイトから、期間を限定して配信した。

「8020の里賞」表彰及び講評

本会議が、乳幼児期からの健康づくりの重要性の啓発と地域組織活動の一層の活性化を目的に平成20年度に創設した「8020の里賞(ロッセ賞)」の受賞団体の活動紹介(本紙前号でも紹介)と表彰、審査委員長を務める日本歯科医師会山本秀樹常務理事が講評を行った。

講評では、市が力点をおく事業をテーマに市のイメージキャラクターを使うなど、行政に協力して市民に広く伝えることに注力している活動、さまざまなアイデアで教材を開発し幼稚園や小学校とも協力し、広く長きにわたり工夫改善を積み重ねながら活動している団体、さまざまな専門職、関係機関から成るプロジェクトチームを結成し、楽しく学べるYouTube動画を作成し、保護者の多くが悩む健康課題をわかりやすく伝えている自治体の活動などが評価されたとした。

講話

生活の中で育むこどもの口腔機能 神奈川歯科大学大学院歯学研究科



今年度の全国集会は事前に収録し特設サイトから視聴

健やか親子21 全国大会併設

「母子保健推進員等及び母子

小児歯科学分野

教授 仲井 雪絵

口腔機能は生涯にわたり重要なため、乳幼児期から日ごろの生活の中で留意し見直し育む必要がある。下あごは頭蓋骨にプランコのようにぶら下がっており、頭蓋骨は背骨の上に乗っているため、口腔機能の発達、姿勢、座り方、前髪の長さなども影響する。食べる機能についても同様に、口唇の力をつけるための日々の生活の中での留意点、工夫点などが具体的に紹介された。

特別講演

母子保健施策の動向

こども家庭庁成育局母子保健課

生殖補助医療係長 白井 麗

こども家庭庁からは、こども家庭センター(妊婦等包括相談支援事業含む)、産後ケア事業、プレコンセプションケアについて、ガイドラインや新規事業を中心に説明、さらに、研修事業や関連情報サイトの案内を行った。

シンポジウム

今、求められる伴走型支援とは

基調講演/座長 公益社団法人母子

保健推進会議会長 佐藤 拓代

事例報告 福島県伊達市

茨城県下妻市

最後に、シンポジウムを行った。本稿では、2自治体の事例報告を中心に報告する。



「8020の里賞(ロッセ賞)」山本審査委員長から表彰状の授与

事例報告 I

妊娠期から子育て期にわたる 切れ目のない支援

～伊達市版ネウボラ事業～

伊達市こども部ネウボラ推進課

副主幹兼ネウボラ推進係長兼統括支援員



村田 桂

福島県北部に位置し福島市に接する伊達市の人口は55,643人(R7.3月)、出生数は213人(R6)、高齢化率

伊達市 村田副主幹

37.4%。

ネウボラ(フィンランドの利用者中心の子育て家族支援の制度であり地域拠点)、「地域の実家」の考え方のもと、

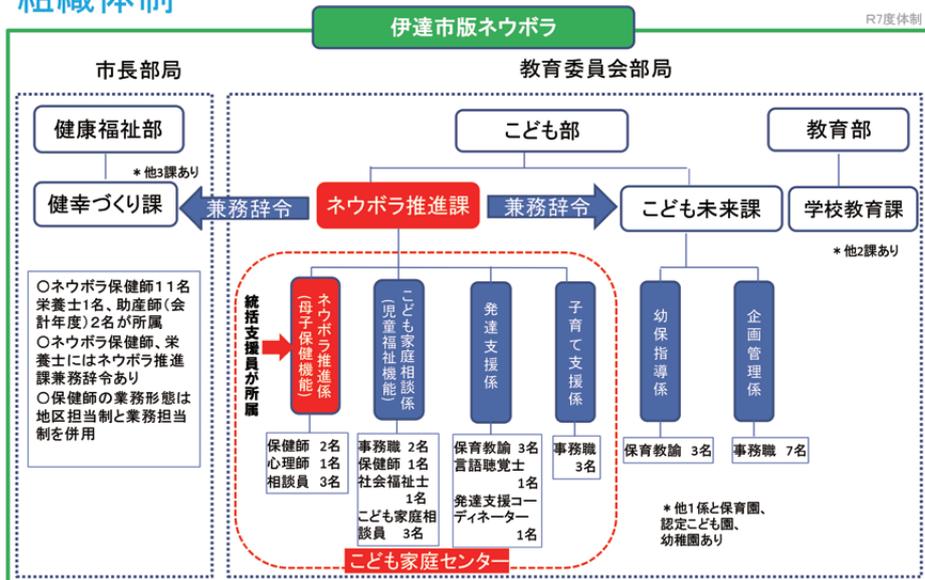
- ・子育てを個別の家族任せ(自己責任)だけに委ねない
- ・専門家の丁寧な「かかわり」で社会を支える
- ・親子の状況や抱えるリスクは流動的なので、つながっていることでリスクを芽のうちに摘む(困る前につながる)

<具体的な主な支援内容>

- ・親になる準備を支援
- ・妊娠・出産・子育ての正確な情報を伝える

保健関係者全国集会」最新の知見と現場の声をオンラインで配信

組織体制



伊達市版ネウボラの組織体制

- ・ リスクの芽を摘み取る対話による問題の予防・早期発見・早期支援
- ・ カップル関係・親子関係の支援
- ・ メンタルヘルスへの支援

芽のうちに摘む(困る前につながる)

伊達市版ネウボラ事業の取り組み

- ①切れ目のない支援を行うための職員の配置：ネウボラ推進係に、保健師2名、相談員3名、公認心理士1名を配置、健幸づくり課(保健部門)に保健師11名、助産師2名を配置(組織体制は上図参照)。

あなたの担当保健師、携帯電話を携行

<具体的な取り組み>

- ・ 妊娠届時に担当ネウボラ保健師が面接、小学校入学まで担当(=あなたの担当保健師)
- ・ 連絡を取りやすい体制：ネウボラ保健師・ネウボラ助産師・ネウボラ相談員は携帯電話をもちアクセスしやすく、ネウボラ名刺を渡す、ネウボラ保健師による支援プランの作成(生活習慣病予防も視野)

②子育てを社会で受け入れる取り組み

H29より全妊婦に妊娠32週以降訪問、育児

パッケージ(市が重点的に取り組む「食べる・遊ぶ・防災」をテーマに作成)を渡しながら、出産準備等妊婦と一緒に考える。

③産後の支援の強化(括弧内は担当)

産前：妊娠中のプレ家族教室(ネウボラ相談員)、出産後すぐ：応援メッセージ(ネウボラ保健師)、退院後すぐ：産後ケア(訪問型・デイ型・宿泊型/ネウボラ助産師)、産後：赤ちゃんサロン・にこにこカフェ(ネウボラ相談員)

④きめ細やかな相談機会の充実

ネウボラ保健師等による妊娠期と乳児期の全戸訪問、ネウボラ相談員、ネウボラ助産師、ネウボラ栄養士等による訪問、携帯電話による相談、相談員による健診や相談会時の声掛け、健康相談会(7か月児、1歳児)

⑤こどもの育ちを促す取り組み

遊びの教室の実施。参加が困難な親子には相談員が訪問し「遊びの教室」実施
遊び方のヒントを載せた小冊子、YouTube配信、公立園で絵本の読み聞かせ強化、発達に支援が必要な親子へ保育教諭や言語聴覚士、教員等による専門的な支援(集団・個別等)

⑥子育てを楽しむ仕組みの構築

子育てアプリ、子育て支援センター(市内6か所)、室内遊び場(市内4か所)

⑦保健・福祉・教育の連携の強化

こども部(児童福祉)は教育委員会に所属し、実務を行う職員には、ネウボラ推進課の兼務

お口の恋人
LOTTE

むし歯のない社会へ。
ロッテ キシリトールガム

もっとおいしく、歯を丈夫で健康に。キシリトールの世界が広がりました。
大切な歯のために、キシリトール習慣!

消費者庁許可 保健機能食品(特定保健用食品) (公財)日本学校保健会推薦 (一社)日本学校歯科会推薦

食品初! 日本歯科医師会推薦商品 **XYLITOL**

www.lotte.co.jp
かんだ後は包んでくずかごへ。

辞令を発出している

＜具体的な取り組み＞

- ・「伊達市3次総合計画」「伊達市教育大綱」に伊達市版ネウボラ事業を明記
- ・「伊達市元気な子ども・みんなの子育て条例」(R6.4)を制定し、庁内横断的な事業を検討
- ・「こども家庭センター」をネウボラ推進課内に設置
- ・庁内関係部署が参加する定例会を実施
- ・「すこやか伊達っ子『子育て・就学』相談支援事業」により、児童福祉・幼児教育・学校教育の連携強化等

今後の伊達市版ネウボラ事業のあり方
人づくり、地域づくり

- ・こども家庭センターの運営
母子保健(予防的な支援)と児童福祉(問題を解決する支援)の情報共有、連携、協力体制をよりシステムの整え、専門職の個別支援の質の向上を図る
- ・全庁横断的な子育て支援の推進
- ・父親等の育児参加の促進
- ・子育てを見守る地域づくりの推進

事例報告Ⅱ

保護者の笑顔のために
～下妻市母子保健推進員協議会の活動～

下妻市母子保健推進員協議会

会長 中山まさ江

下妻市保健福祉部健康づくり課

課長補佐兼母子保健係長 湯本 陽子

茨城県南西部に位置する下妻市は人口41,123人(R7.7.1)、出生数は194人(R6年度)、高齢化率30.4%、保育施設は12施設、子育て支援センター3か所、小児科専門クリニックは1か所のため、近隣の市の小児科を受診することも多い、公共交通機関が少なく、移動は車が中心となっている。



シンポジウム「今、求められる伴走型支援とは」
左から下妻市中山さん、湯本さん、伊達市村田さん、座長の本会議佐藤会長

令和7年4月、子育て支援課内に「こども家庭センター」を設置。母子保健係は健康づくり課内にあるが、いずれも保健センター内にあり、役割分担をしつつ、密接に連携して妊娠期から子育て期の親子の健康づくりを支えている。

下妻市母子保健推進員協議会の活動は、昭和48年から始まった。当初は、乳幼児健診への協力や受診動奨、妊婦や乳幼児のいる家庭への訪問、市の事業への協力を主な活動として行ってきたが、令和2年度から、活動を充実させるため子育てに関する独立したボランティア団体となり、市からの補助金を活動費とし、現在、会員50名(R7年度)で活動している。「子育て世代が安心して地域で子育てができるように、市の母子保健事業に協力し住民と行政をつなぐこと、また自主活動を通し、保護者と子ども、保護者同士の交流する場を設定すること」を目的に、以下の活動を行っている。

(1)市の事業「子育てに関する健康教室」の保育協力

母親が安心して各種教室等に参加できるように、母子保健推進員は乳幼児の保育を行っている。

(2)「親子遊びの交流会」の開催
(年3回)

親子のふれあい、親同士・子ども同士の交流の場として開催。最近では、参加が小さい子

が多いことから、工作(手型・足型スタンプ、手づくりけん玉)、集団遊び(親子エクササイズ・わらべ歌など)、絵本の読み聞かせなどを行っており、毎回20～25組の参加がある。プログラムの組み立てで気をつけていることは、

- ①簡単、楽しい、親子で楽しめること
- ②季節に合ったテーマ
- ③昔から続く遊びを取り入れること

(3)研修会への参加

テーマ例：救急法について、今と昔の子育て事情、こどもとメディアの関係など

(4)その他

健康や子育てに関する計画策定の委員等
＜活動にあたり思うこと＞

SNSにより情報はなんでも得られるようになったが、かえって迷い、不安になることもあるようだ。そんな時、悩みを相談、共有したり、健康づくり課の保健師等につなぐ役割を、今後も担っていきたい。

- ・親子がたくさんの人と触れ合う機会に
- ・世代の違う人と交流できる(こども世代・親



「親子遊びの交流会」の様子

世代・祖父母世代)機会にしてほしい。

- ・今と昔の子育ての違いを踏まえて、支援していきたい
- ・子ども同士のふれあいの場の提供。
- ・お母さんに笑ってもらいたい、楽しんでもらいたい。
- ・核家族化が進む中、これからも地域で子育てを支えていきたい。

<今後に向けて>

- ・推進員が楽しみ、推進員で話し合い、時代にあった活動をしていきたい。
 - ・保護者同士の交流の場の創出
 - ・親子が孤立しないような工夫
 - ・親子と行政のパイプ役としての役割
- 行政職、専門職等と協力し、地域のボランティアとしてのネットワークを生かし、



手型足型スタンプと手づくりけん玉

保護者を支援することができればうれしい。

子育て中のパパたちの仲間づくり・自分再発見を応援

～子育てパパピアカフェ開催～



自分の憧れの人って…

子育てに積極的な父親が増えてきている一方で、仕事との両立、職場や家族等周囲の人との関係性、孤独感などを抱えながら子育てをしている父親も少なくない。全国自治体では、父親支援の取り組みが始まっているが、本会議でも、NPO法人とちぎみらいwithピアが中央ろうきんの助成を受け実施している事業に、東京都助産師会館とともに共催し「子育てパパピアカフェ」を昨年10月18日(土)、東京都助産師会館(東京都文京区)で行った。

プログラムは、自治医科大学附属病院こころのケアセンター公認心理士・臨床心理士の高桑洋介先生による講話「パパのための子育て心理学」に続き、自治医科大学名誉教授高村壽子先生によるエンカウターの演習を中心とした「新しい生活様式の中での子育てパパ同士のつながりカフェ～子育てパパピアカフェ～」という構成。参加したパパたちは、心を開いての仲間づくり、

自分に向き合い将来の夢を考える演習等に取り組んだ。

終了後参加者からは、自分と同じ感覚を持っている人が少なからずいることがわかり気持ちが軽くなった、自分に向き合うこ

とが久しくなかったが、時々には必要であると感じた、などの声が聞かれ、グループラインを作成する等していた。

参加者の声や他所の取り組み等を参考に、父親支援を進めていく。

子育てパパ同士つながりピアカフェ“経験共有会”開催

「子育てパパ同士つながりピアカフェ“経験共有会”」が2月14日(土)、宇都宮市男女共同参画センターアコールにて開催された(主催：NPO法人とちぎみらいwithピア 共催：宇都宮市・さくら市・栃木市・鹿沼市 後援：栃木県)。

とちぎみらいwithピアでは、令和7年度中央ろうきんより助成を受け、子育てパパ同士つながりピアカフェ(上述)を、県内4市と本会議各共催にて実施した。このたびは、実施内容と参加したパパたち、寄り添った支援者たちが感じたこと、気づいたことを共有し、今後求められる子育てパパ支援のあり方を考えることを目的に開催された。

参加したパパからは、

- ・「自分の気持ち」「自分の夢」に向き合う時間が持ててよかった。
- ・最近「良いパパはこうでなければならぬ」と自分の気持ちは後回し、正直我慢の連続だったが、同じ境遇の「仲間



が近くにいとわかっただけで、なぜか気持ちが楽になっていた。

- ・認められ、見守られていれば親も子も育てていくと感じた。
 - ・受講後は、自分たちならこれからも前向きな「なにか」ができそうな気がした。
- 支援者(自治体担当者等)からは、
- ・パパの本音が聞けたので、これを他の事業に活かし、地域に還元していきたい。
 - ・この教室の必要性、有効性はわかっているので、今後周知をどうしていくか。
 - ・来た時と終了後お子さんを迎えに来た時のパパの顔がまるで違った。帰りは柔らかい笑顔だったので、お子さん(0歳児)も笑顔でパパにしがみつぎに行っていた。

紙上セミナー SEMINAR

8020の星づくり

こどもの口腔機能発達について

口腔機能発達不全症とは

お子さんを見ていて、食事のときにうまく噛めない、飲み込めない、発音が聞き取りにくい、口がいつも開いている、寝ているときにいびきをかく、指しゃぶりや爪噛み、舌を噛む癖、歯並びが気になる、などに心当たりはありませんか。

生まれつき病気ではないのに、お口の機能が十分に発達しなかったり、上手く使えなかったりする状態のことを「口腔機能発達不全症」と言います。発達不全というと身構えてしまいがちですが、原因となる口腔疾患が無いにもかかわらず『食べる機能』『話す機能』『その他の口腔機能』が十分に発達していないか、機能獲得が遅れているときに用いる概念です。最近増加傾向にあり、これに対する治療は2018年から保険適用となりました。

主な症状

本人には自覚がないことが多く、家族や保育施設・教育現場において気づき相談につながる人が多い点が特徴です。

- 咀嚼（噛む）・嚥下（飲み込む）が苦手で、むせやすい／偏食である
- 構音の異常（発音が不明瞭で聞き取りにくい）
- 平常時の口呼吸、口唇閉鎖不全（口が開いている）

- 睡眠時のいびきや呼吸の乱れ
- 指しゃぶり、爪噛み、舌や唇の不適切な癖
- 歯並び・咬み合わせの不正（顎位の異常を含む）

といった生活習慣に偏り、噛む・飲み込む・話すといった口腔機能自体の評価が不十分です。乳幼児期は口腔機能が急速に発達する重要な時期であり、ここでの評価・介入不足は栄養や言語発達、社会参加に長期的な悪影響を及ぼすリスクがあると考えられています。

簡易口腔機能スクリーニング

問診でリスクをふるい分け、リスクのある児童を観察に回す動線を作り、紹介先への明確な導線を整備します。

（例）保護者向け簡易問診

1. 食事中によくむせる
2. 偏食があり、硬い物を避ける
3. 発音について指摘を受けたことがある
4. 日中・睡眠中に口が開いている、いびきがある
5. 指しゃぶりや爪噛みなどの癖が続いている

評価の目安（運用に応じ閾値は調整）

「はい」の数が1～2個：要観察

3個以上：要精査

簡単な観察テスト

- 咀嚼の観察

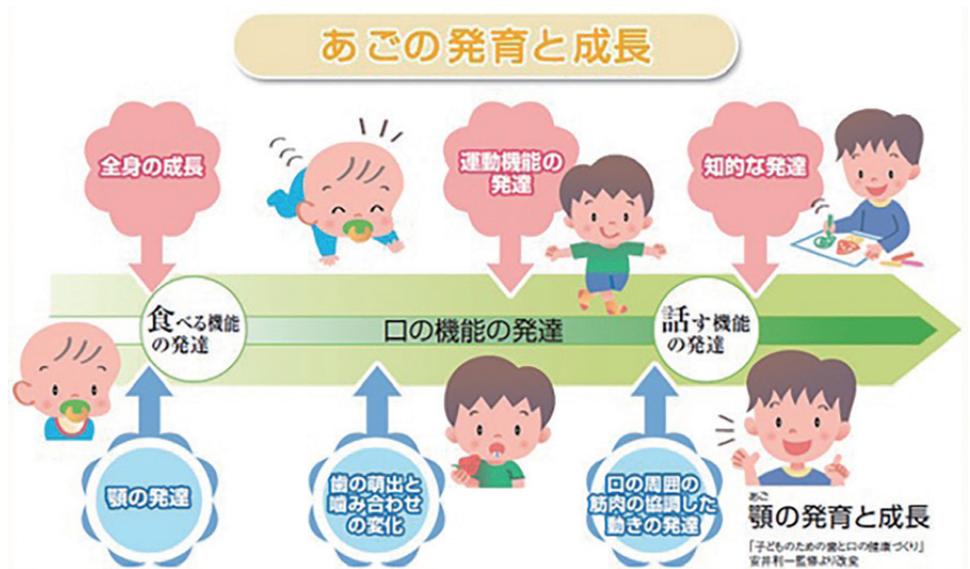
左右均等か、咀嚼回数・咀嚼効率を短

歯並び・咬み合わせとの関連と予防の重要性

咬合不正は口腔機能の発達と深く関係します。特に成長後（概ね13歳以降）では自然改善が難しいため、幼児期の早期介入・予防が重要です。舌や唇の癖、口呼吸などを放置すると顎や歯列の発育に悪影響を及ぼし、将来的に矯正や外科的治療が必要になる場合があります。

乳幼児健診と現状の課題

現在、乳幼児に対する歯科健診は、法定健診である1.6歳児、3歳児の他、園児など自治体によって行われていますが、その内容は異なり、現在の多くの健診では「仕上げみがきの有無」と



時間で確認

- 単純構音テスト
「パ・タ・カ・ラ」を発音させ、明瞭度を評価
- 口唇閉鎖の確認
唇を軽く閉じさせて保持できるか
- 舌突出、舌位の確認
舌が前方に突出していないか
- 呼吸様式の確認
鼻呼吸か口呼吸か（視診、問診で判断）

判定と導線

- 要精査
言語聴覚士、小児科、耳鼻咽喉科、小児歯科など専門医への紹介。紹介先一覧と受診理由を簡潔に書いた紹介状を用意する
- 要観察
家庭での具体的なセルフケア指導を提示し、再評価時期を設定（例：3～6か月後）
- 問題なし
通常健康指導にて経過観察

事後措置（家庭でできる具体例）

- 継続しやすく現実的な内容を保護者に示すことが重要です。
- 唇閉じ体操
唇を閉じて10秒キープ×数回／日

- 舌の前後運動
「ペー」と出して引く動作を数回繰り返す
- 咀嚼訓練
安全な硬さの食品を少量ずつ、よく噛むことを促す（回数を指示）
- 夜間のいびきや口呼吸が強い場合は耳鼻科受診を促す

多職種連携の仕組みづくり

スクリーニングでリスクが見つかった児童を確実に支援につなげるには、自治体が以下を整備することが望ましいと考えられる。

- 受診先（言語聴覚士、療育機関、耳鼻科、小児科、歯科）の一覧と連絡フロー
- 簡易評価フォーム・紹介状テンプレート
- フォローアップの期限と経過記録の保存方法
これらを明文化して現場の負担を減らすことで、支援の取りこぼしを防げます。

まとめ

口腔機能発達不全症は幼児期の「見えにくい問題」であり、早期に発見して対応することが将来の健康に直結します。

実務的には「保護者問診→短時間観察→三段階判定→紹介・再評価体制」を整備することが有効であり、家庭でできる具体的なトレーニングと、多職種連携の仕組みづくりが成功の鍵になります。

公益社団法人 日本歯科医師会
地域保健委員会委員 大内 仁之



8020 ひとくちメモ お口ポカンと口呼吸

口の周りの筋肉が十分に発達していないと、唇をしっかり閉じられずに「お口ポカン」になることがあります。2021年の新潟大学などの疫学調査では、日本のこどもの約30.7%が日常的に口を開けた状態であると報告されています。また、アレルギー性鼻炎や副

鼻腔炎などで慢性的に鼻が詰まると口呼吸になりやすく、舌の位置が低くなって顎が狭くなり不正咬合の原因となります。

口呼吸は鼻のフィルター機能を通らないため、ウイルスや細菌が直接体内に入りやすく、風邪やインフルエンザ、喉の炎症を起こしやすくな

ります。さらに口が乾燥して唾液が減ると、むし歯や歯周病、口臭の原因にもなります。お子さんに「お口ポカン」が見られたら、まず鼻づまりの有無や睡眠時のいびきなどを観察し、早めに耳鼻科や歯科に相談するようにしましょう。

歯科保健指導用パネル 最新版 ★歯周病と生活習慣病 (全4枚) ★しっかり噛んで食べる

近年、様々な疾患との関係が注目される歯周病は、決して「高齢者の病気」「口の中だけの病気」ではありません。妊産婦においては早産や低体重児出産を招くリスクが高まります。妊娠中は口内の環境が変わりやすい時期でもあり、むし歯だけでなく歯周ケアの知識を持ち、お口の中も健康に過ごしたいものです。

歯科保健パネル「歯周病と生活習慣病」シリーズでは、歯周病の全身への影響や予防のためのお口のケア、歯周病のセルフチェックリストといった、知っておきたい内容を紹介しています。「咀嚼」に特化したパネルも作成し、よく噛んで食べる大切さ、だ液の果たす役割などを1枚にまとめました。

■1枚(各シリーズ共通価格)

14,000円(税・送料別)

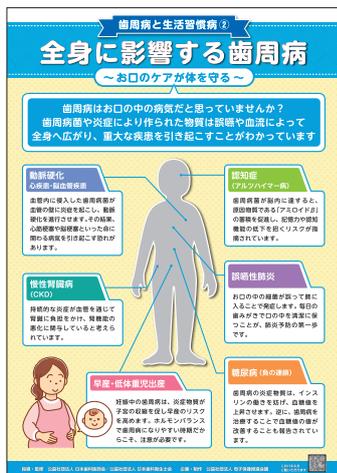
■4枚セット(歯周病と生活習慣病シリーズ)

55,000円(税別)

※合計15,000円(税別)以上は送料無料

指導・監修

公益社団法人 日本歯科医師会
 公益社団法人 日本歯科衛生士会
 企画・制作
 公益社団法人 母子保健推進会議



「全身に影響する歯周病」



「しっかり噛んで食べる」

歯周病と生活習慣病シリーズ

- ①歯周病とは
- ②全身に影響する歯周病
- ③歯周病と糖尿病との深い関係
- ④歯周病のセルフチェック

全4枚

全パネル共通

サイズ：A 全判
(841mm×594mm×10mm)

重量：約 750g

加工：アルミフレーム、
留め金・掛け紐付き

お問い合わせ・お申込み
 bosui@bosui.or.jp TEL: 03-6902-2311

「気持ちに寄り添うスキルアップセミナー」のご案内

寄り添い型の支援について、理論と演習で学びます。妊婦さんや乳幼児を子育て中の方に寄り添う立場にある様々な現場の方に、ぜひご受講いただきたいセミナーです。プログラム等の詳細は同封のご案内をご覧ください。

期日 令和8年3月16日(月)
 会場 東京都助産師会館5階 講堂
 主催 公益社団法人 母子保健推進会議
 後援 こども家庭庁 公益社団法人 日本助産師会 全国保健師長会
 対象 保健師・助産師・保育士・こども家庭センター担当者等
 受講料 8,000円(税込)

編集帖

今号では、「健やか親子21全国大会」併設『母子保健推進員等及び母子保健関係者全国集会』について、シンポジウム「今、求められる伴走型支援とは」で行われた2自治体の事例報告を中心に紹介した。今年度は事前収録のオンライン配信だったが、オンラインならではのよい点もあった。これまで開催地が遠方のため参加したことのない母子保健推進員さん等が、自治体の会議室に集まり皆で視聴したという報告を数多くいただいた。また今回報告していただいた自治体には、他自治

体のみならず、母性看護を学ぶ学生さんからも質問があったと聞く。質問を受けた保健師さんは、想いを共有できてうれしかったとのこと。親子の健康を願い活動する方々は、立場を超えて共通の想いがあるのだろう。

今号では、父親支援の教室についても紹介した。参加した父親たちは、その後、月に1回自主的に集まる、グループラインで情報交換や相談をするなど交流を続けている。どのような立場の人も、共感できる人がいる、心の居場所が必要なかもしれない。(Y)

